

海を照らす灯台のなかまたち🏰

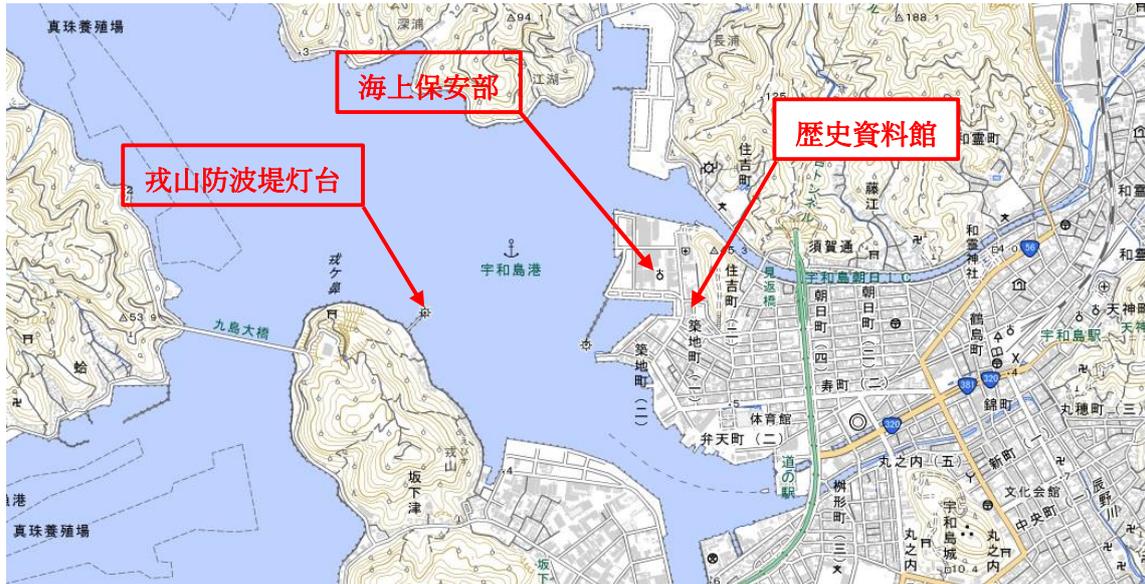
～宇和島港戎山防波堤灯台

(うわじまこうえびすやまぼうはていとうだい) ～

宇和島港戎山防波堤灯台は、令和6年に「うしおに灯台」の愛称で
装飾を施された、宇和島港を代表する航路標識です。



【牛鬼となった宇和島港戎山防波堤灯台】



宇和島港は、四国南西部の中核都市・宇和島市を后背地とし、豊予海峡（豊後水道）からみると宇和島湾最奥部に位置しており、港の入口付近には周囲 10km 余りの九島があつて自然の防波堤となっていることから、従来より天然の良港と呼ばれています。

1615年（元和元年）、初代宇和島藩主・伊達秀宗のときに、榑崎地区に御台場が設けられたのが港湾建設の始めとされ、1859年（安政6年）に宇和島藩が西洋型蒸気船を建造したり、1866年（慶応2年）にはイギリス艦隊が入港するなど、港の重要性は高まる一方でした。

1900年（明治33年）には、宇和島城の堀を埋立て、内港が築造され、その後、航路・泊地の浚渫や浅海の埋立てが行われるなど、

逐次施設等が拡充されました。

1960年（昭和35年）に重要港湾に指定され、現在では四国有数のクルーズ船寄港地となっています。



【海上保安部から宇和島港内を望む】

灯台のある戎山地区は、宇和島市街地と九島の中の北西に突き出た半島で、江戸時代は宇和島藩のお狩場（鹿狩り）でした。

南予地方の海岸防備のため、1864年（元治元年）、対岸の樺崎（海上保安部の直ぐ近く）と共に砲台（恵比寿山砲台）が築かれました。（樺崎砲台の完成は、1855年（安政2年））

樺崎砲台場跡地には、現在も石積みの基礎が残っており、直ぐ横には宇和島市立歴史資料館があります。

この資料館の建物は、1884年（明治17年）に宇和島警察署として建てられたものを移築しており、建築様式が「擬洋風建築」に分類され、西日本では珍しいとされています。

戒山防波堤灯台は、宇和島港の港口を示す標識として、1984年（昭和59年）に建設されました。

その赤い佇まいから、一部の市民に地元の伝統的なシンボルである「牛鬼」に似ていると言われていたもので、海上保安部では令和6年に「うしおに灯台プロジェクト」を立ち上げ、ほぼ職員の手作りで完成させました。

今後、地元の祭りやクルーズ船寄港に合わせて披露いたします。



【牛鬼のお面を段ボールで製作中】



【尻尾を塗装する交通課職員】



【お面の取付け作業】



【巡視艇たかつきにて市民にお披露目】

○宇和島港戎山防波堤灯台要項

所在地 愛媛県宇和島市（戎山防波堤外端）

塗色・構造 赤色、塔形（コンクリート造）

灯 質 単せん赤光 毎5秒に1せん光

光達距離 3.5海里（約6.5km）

高 さ 地上から構造物の頂部まで 8.54m

平均水面上から灯火まで 10.32m

地上から灯火まで 8.32m